since1983 vol.4

進化するトライアル

今から4年前、東大阪店と南大阪店を統合し
1500坪の大型チューニングショップとして
リニューアルオープンしたトライアル。
そして高松店、鳥取店もオープンし
その組織はさらに拡大してきた。
数年後には海外にも進出するという。
トライアルはどこまで進化していくのだろうか…？

ヒストリー・オブ・トライアル。そしてこれから…

L型ツインターボで最高速307.955km/hを叩き出す

大手チューニングメーカーさえもオーバー300km／hを計測するのは難しかった時代、トライアルのS130ZはL型ツインターボで307.955km／hを計測したのだ。パワーはもちろんのことファイナルギアにも着目し、このZにはどこよりも早くR200のファイナル3.1が組み込まれていた

兄のチャレンジを手伝うために大阪にやってくる

牧原サンが生まれ育ったのは鹿児島県であるが、兄が堺市でチャレンジを経営していたことから19歳の時に大阪にやってきた。当時はまだチューニングカーがそう走り回っていない時代、チャレンジはホーンやステアリングカバーを扱う自動車用品店であった。牧原サンはチャレンジを手伝うかたわら、下宿していたアパートの下の自動車修理工場でアルバイトしながらクルマの構造を学んだそうだ。

やがてキャブ、マフラーなどを交換するユーザーが増え出し牧原サンを中心にしてチューニングショップへと様変わりしていく。そしてユーザーの要望に応じてチューンもエスカレートしていきチャレンジは関西を代表するチューニングショップとなった。毎晩のようにショップ同士のバトルがストリートで展開される中、もちろんチューンは独学でターボに関しても試行錯誤しながらいち早く手掛けていったのだ。当時は日産L型チューンの全盛であったが、牧原サンが乗っていたのは意外にもサバンナRX・3。ボディにはワークスフェンダー、GTウイング、カナードがセットされスリックタイヤを履いたレーシングカーチックなクルマだったそうだ。ひょっとして…この牧原サンの「速くてカッコいいクルマ」への憧れは今日のトライアルにおけるクルマ造りの基礎になっているのかもしれない。

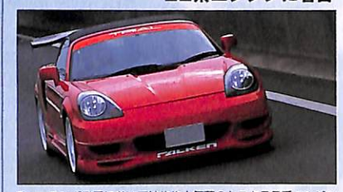
独立して東大阪にトライアルを設立する

メカチューンからターボチューンへと移行する時、牧原サンは独立してトライアルを設立した。当時は最高速の時代であり牧原サンが手掛けたチューンドターボのZは好記録を残していたが…大きな壁があった。当時チューンドカーで300km／hをオーバーさせるのはかなり難しくHKSなどのメーカーが本気になって最高速仕様を製作していたのだ。しかしL28改ショートストローク＋H18改25ツインのキャブターボを搭載するZが計測したのは307・955km／h。とんでもない記録を関西の1ショップが叩き出したのだ。

その後、トライアルはユーザーのニーズに応じた斬新なチューンを展開していくが、牧原サンはツナギを脱ぎチューナーとしてではなくショップ展開に手腕を発揮していくことになる。当時チューニングショップはオイルに汚れたピット、散らかったパーツ類などダークなイメージがあったが、トライアルはいち早く白い木造のショールームを設けフロントには女の子を配置した。そしてクリスマスパーティなどユーザー参加のイベントを企画したのだ。「当時はチューニングショップのイメージを変えていかなアカンとカッコええこと言うとったけど、ホンマは自分自身が楽しみたかったんやろな」と牧原サンは言うが、トライアルがチューニングの底辺層を広めたことは確かだ。

トライアル代表取締役
牧原道夫
昭和29年1月24日生まれ　トライアル設立後、チューニングのみならずユーザーの目線でいろんなものにチャレンジしてきた。今ではショップ経営に手腕を発揮しているが若手スタッフからの相談に対しては適切なアドバイスでチューナーとしての一面を垣間見ることができる。

MR-S、セリカに搭載されるZZ系エンジンに着目



チューニング業界においてはやや人気薄のトヨタZZ系エンジンであるが、トライアルではこれからの主流エンジンとして着目しZZ改2リッターキットなどオリジナルパーツを積極的に開発している。またセリカのスーパーチャージャータイムアタック仕様のテストも現在進められているところだ

その気になれば本気のタイムアタック仕様も製作

オリジナルのエアロパーツやホイールをリリースしてストリート路線を強調するトライアルだが、データ取りも兼ねて本気のタイムアタック仕様も製作している。中でも80スープラはGTカーチックにチューンドJ3S・GTを搭載しT1＝1分38秒台、セントラル＝1分24秒台を計測している

Kansai Tuning Shop Close up!!
関西チューニングショップクローズアップ!!

Kansai Tuning Shop Close up!!

進化するトライアル

規制緩和に伴い大型チューニングショップへと進化する

トライアルは東大阪店に次いで南大阪店、そしてフランチャイズ店として高松店がオープンした。しかし牧原サンは保守的になることなく88年には1500坪、駐車スペース100台の大型チューニングショップとしてトライアルをリニューアルオープンさせたのだ。そのきっかけとなったのはチューニングに対する規制緩和だという。「チューニングショップがアウトローな商売ではなく世間に認められたワケ。ってことはディーラー、カーショップなどクルマに関わる人たちすべてと競争、協力していかなアカン。そうなったらスタートの段階で負けるわけにはいかんやろ。だから誰もが気軽に入ってこれる店にするため駐車スペースを取りショールーム、ショットバーなどもセットしたんや。今、感覚的にはディーラーや大型量販店の方が進んどる。ショールームにはキッズコーナーまであるんやで。トライアルもそれに負けんとやっていかな」。そして今では各チューニングメーカーのデモカー試乗会、クルマが当たる抽選会などのイベントを積極的に展開している。

トライアルがこれまで行ってきたチューニングショップのイメージ創りはほんの序章にすぎなかった。昔「チューニングショップのイメージを変えていかなアカン」と言ったことが今やっと実現できたと牧原サンはいう。

これからどうなるか想像できないが、やりたいことはまだある

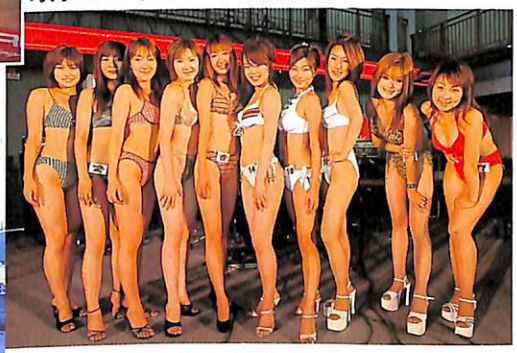
トライアルは今年、第二のフランチャイズ店として鳥取店がオープンした。チューニングショップをやりたいという若者がいれば数年間、トライアルで修行しスタッフ達が認めた上でフランチャイズ店を出店させているのだ。またアメリカにはトライアルブランドの販売事業所を設立し数年先にはトライアルマレーシア、トライアルコーリアも設立する予定である。そしてトライアルプロジェクトではオリジナルパーツの販売／開発とチューニングショップに止まらず、その組織はさらに拡大しようとしている。もちろん肝心のチューニングに関しても若手スタッフ達が中心となってユーザーのニーズに応えているのだ。

「そりゃ、1チューニングショップとして構えた方が楽やで。俺かってのんびりできるし。そやけどいろんな人と出会って、時代に応じたことをやってきたらこうなったんや。もうトライアルは俺だけのもんやない。みんなで頑張っていかな。ホンマ、これからどうなっていくか想像でけへんけど、やらなアカンことはいっぱいあるわな」。

今から20年前、牧原サンが独立した時、兄のチャレンジ＝挑戦の流れを受け継ぐチューニングショップとして社名は同じような意味のトライアルにした。以来、牧原サンはあらゆるものに挑戦してきた。そしてこの挑戦はまだまだ止まりそうもない。

銀蝿のミニライブコンサートも開催され、迫力あるサウンドが暑いた

毎月ユニークなイベントを開催中



トライアルではユーザーに楽しんでもらうためずいぶん昔からいろいろなイベントを展開してきた。そして今では各チューニングメーカーのデモカー試乗会、ワゴンカーニバル、ギャルコンなどが毎月企画されている。8月のイベントでは暑い最中、大勢のユーザーで賑わっていた

ショットバー＆インターネットカフェを設置したショールーム

広々としたショールームにはショットバーやインターネットカフェまでも設置されている。チューニングに興味がない彼女を連れてきても退屈しないはず。ただ牧原サンに言わせればディーラーや大型量販店の方がもっと感覚的には進んでいるとのこと。けっしてこれで満足しているわけじゃない

Kansai Tuning Shop Close up!!
関西チューニングショップクローズアップ!!

取材協力／トライアル　大阪府南河内郡美原町丹上87-1　☎0723-69-3539